

～疫病等、病害虫の発生に注意しましょう！～

萌芽期を迎え、既に培土作業も行なわれていますが、6月中旬以降、多雨・少日照で推移していることから、疫病が発生しやすい状況になっています。

また、6月上旬まで少雨であったことから、害虫の発生も早まることが予想されますので、発生状況も確認の上、防除を行って下さい。

1 疫病

疫病は低温多湿で急速にまん延します。本年は、現時点で「FLABS」による危険期到達日には達していませんが、6月始めに萌芽したほ場では6月下旬に到達する可能性があります。天候回復後、予防防除を行って下さい。

- 発生を確認したときは、直ちに治療効果のある薬剤を使用しましょう
- 終花期までは浸透移行性のある薬剤を使用しましょう
- 天候がぐずつく等、ほ場に入れない期間が予想される場合は、「ダブルインターバル」（14日間の防除間隔）で効果のある薬剤および倍率で防除を実施しましょう
- 開花期～終花期には菌核病、また塊茎肥大期以降は塊茎腐敗にも効果のある薬剤を選択しましょう。

2 軟腐病

近年、降雨後の高温により、7月上旬の早い時期から軟腐病が発生するケースが見られます。特に、害虫の食害痕や培土作業等により茎葉が傷付いた箇所から感染しやすいため、疫病と併せて防除の徹底に心がけましょう。

【疫病・軟腐病の防除薬剤例】（H30.6.18日現在の登録内容）

病害名	薬剤名	使用倍率		使用時期	使用回数	浸透性	効果
			ダブルインターバル				
疫病	グリーンペンコゼブ水和剤	500～600倍	－	7日前	10回	×	予
	フロンサイドSC	1000～2000倍	1500倍	14日前	4回	×	予
	プロポーズ顆粒水和剤	750～1000倍	750倍	7日前	3回	△×	予治
	ホライズンドライフロアブル	1000～2500倍	－	14日前	4回	×○	予治
	リライアブルフロアブル	800～1000倍	800倍	7日前	3回	○	予治
	ゾーベックエニケード	5000倍	－	7日前	2回	○	予治
軟腐病	スターナ水和剤	1000倍	－	7日前	5回	△	予治
	カスミンボルドー	500～800倍	－	7日前	3回	○×	予治
	クプロシールド	1000～2000倍	－	－	－	×	予

※「フロンサイドSC」、「プロポーズ顆粒水和剤」、「リライアブルフロアブル」は塊茎腐敗にも効果があります。

※「フロンサイドSC」は菌核病にも登録があります。

3 アブラムシ類

「北海道病害虫防除所」の予察情報では、発生期は「やや早」で発生量は「やや多」の予報が出されています。早い時期から防除を実施するとともに、7月上～中旬には3種類（ジャガヒゲ・モモアカ・ワタ）のアブラムシ全てに効果がある薬剤を選択しましょう。また、終花期までは茎葉伸長期にあたるため、薬剤はなるべく浸透移行性があるものが望ましいです。

4 テントウムシダマシ（オオニジュウヤホシテントウ）

昨年は発生が多く見られました。成虫、幼虫ともに葉を食害するため、多発すると生育が抑制されたり、病害を誘発するおそれがあります。日中は葉裏に生息していることが多いため、薬液が葉裏にも十分かかるように防除を行いましょう。

【アブラムシ類およびテントウムシダマシの防除薬剤例】（H30. 6. 18日現在の登録内容）

害虫名	薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数	浸透性	効果発現	残効性	アブラムシ類（注1）			テントウムシダマシ
								ヒゲ	モモ	ワタ	
アブラムシ類	ゲットアウトWDG	2000～3000倍	7日前	4回	×	速	中	◎	○	○	×
	ウララDF	2000～4000倍	7日前	2回	○	遅	長	○	◎	◎	×
	エンセダン乳剤	1500倍	7日前	6回	○	速	長	◎	○	○	○
	コルト顆粒水和剤	4000～8000倍	前日	3回	○	遅	長	◎	◎	◎	×
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～15000倍	14日前	2回	○	中	長	○	◎	◎	○
	スミチオン乳剤	1000倍	3日前	6回	○	速	短	○	×	○	○
	デナポン水和剤50	1000倍	7日前	3回	△	中	中	×	×	○	○

注1：ヒゲ：ジャガイモヒゲナガ、モモ：モモアカ、◎：優れる、○：有効（ホクレン資料参照）

注2：同系統の薬剤の連用は避け、他系統薬剤とのローテーション防除を心がけましょう。

※「ゲットアウトWDG」は、ナストビハムシにも効果があります。

※「エンセダン乳剤」は、ヨトウムシにも効果があります。

※「ウララDF」および「コルト顆粒水和剤」は、アブラムシ類の吸汁を阻害して死に至らせるため、効果の発現（死滅）までには数日かかります。

農薬安全使用 ～農薬を使うときの留意ポイント！～

①農薬使用基準を守りましょう

- ・必ずラベルを読み、使用量・時期・回数を確認し、適正に使用しましょう。

②飛散防止に努めましょう

- ・風の強さや風向きに気をつけましょう。
- ・適切なノズル、圧力で散布しましょう。
- ・散布の方向や対象作物との距離に注意しましょう。
- ・散布量を守りましょう

③散布後は器具をよく洗いましょう。